

広尾学園中学校高等学校

(前 順心女子学園)

帰国生には最高の環境と条件 (12)

国際担当 小山 和智

2007年4月、新生「広尾学園」がスタートしました。順心女子学園の帰国生に対する受け入れ体制や個別指導の素晴らしさが、既に合格した多くの男子にも開放されることになりました。ますます目が離せない学校です。

● 広尾学園ならではの「けやき祭」

10月13日・14日は、広尾学園の文化祭「けやき祭」でした。生徒数680名の学園に4,082名もの来場者があり、生徒も保護者・教員も“感動の体験”を満喫しました。

「けやき祭」の特徴は、焼きそば・たこ焼きなどの屋台、あるいは喫茶店・食堂といった「模擬店」を生徒自身はやらないで、地元の商店街や業者、あるいはPTAや後援会などに任せていることです。また、お化け屋敷や金魚釣りなどの「お遊びコーナー」もありません。つまり、生徒は日頃の部活動やプロジェクトにおいて重ねてきた研究や練習の成果を発表することに専念するわけです。

また、広尾学園を訪ねてくださる皆さんに「来てよかった」と思っただけのように、出迎えから見送りまで常に心のこもった対応を心がけ、満足してお帰りいただく面でも努力しています。各コーナーの質の高い展示や発表、そして運営の様子を体験してもらえれば、来校された皆さんは学園のファンになってくださいますし、何より生徒や保護者が学園との一体感を実感できます。

最近では公立学校でも珍しくなった「学校・家庭・地域社会の協働」が、広尾学園にはキチンと息づいていますので、受験生の保護者にも安心して志望校としてお考えいただけるようです。まして、外国生活の長かった帰国生にとっては“居場所”を見つけ易く、リラックスできる空間であることを直感的に理解します。



けやき祭：校庭の特設ステージ

● 統一テーマが高い満足度を生む

学級単位やクラブ単位で取り組むプロジェクトには、けやき祭全体の統一テーマが決まっています。今年の生徒会は、広尾学園がジュニア・



忙中閑のおもてなし

サミット (J8. <http://www.j8summit.com/japan/>) の日本代表に選ばれたことを受けて「環境」を統一テーマと決定しましたから、すべてのプロジェクトは原則として「環境（保全）」に沿ったものを発表しなければなりません。

各プロジェクト・チームは、「自律と共生」の精神に基づいて生徒会役員とのプレーストーミングを重ねて、運営の細部の企画を立てていきます。中学生の展示では「森林の破壊」「オゾン層の破壊」「廃棄物」「大気汚染」「水環境の汚染」「大地の砂漠化・絶滅する動植物」「地球温暖化」「ダイオキシンのエコ製品」などが並び、「環境フォトコンテスト」や「環境新聞」の作品も廊下に掲示されました。

高校生の発表では「株式会社ユーグレナの取り組み」「航空会社の地球環境に対する取り組み（協力：全日空）」「環境に関するクイズを解きながら進む迷路」など、かなり高度な研究内容となる一方で、分かり易く説明する工夫もされています。校舎正面に、ペットボトルを用いた巨大オブジェを作成するプロジェクトもありました。

ともかく、廊下や階段からカフェテリアの壁面まで、学園内のほとんどが研究発表や作品などの展示で埋め尽くされ、それでいて雑然とした空気を感じさせないのは、統一テーマを生徒たちが共通理解しているからこそです。「他の学校にはない、優れた文化祭ですね」などと多くの方々から評価をいただいておりますが、最も満足しているのは生徒たちでしょう。